



No.64
2013.3.30

SEA NEWS



- ① …新シーズンに向けて・第4回運営会議開催・埼玉県サッカー協会東松山サッカー場について
- ② …座談会～生まれ変わった「女子連」、この一年を振り返る～「長い目で見てください」
- ③ …おめでとう、関東昇格!～坂戸シティFC & 東京国際大学～
- ④ …2012年度C級コーチ養成講習会SFAインターンシップコース(春)終了!
- ⑤ …SMC サテライト講座終了!～受講生の声を紹介～
- ⑥ …大会記録●県内大会 1種・2種高校・3種・4種
- ⑦ …大会記録●県外大会 フットサル 報告●JFA/パイロット研修会・西部地区タウンミーティング
- ⑧ …ガールズ&レディースフェスティバル開催!・インフォメーション・編集後記

●発行/発行人:会長・相川宗一 編集人:荒川裕治 ●発行所/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18雁ヶ音ビル204号室 Tel048-834-2002-Fax048-834-2004 http://www.saitamafa.or.jp/

新シーズンに向けて ～各種新人戦が開催～

1月から3月にかけて、県内各地で新シーズンに向けた大会が相次ぎました。まず1種選手権は決勝戦が強風のため中止になり、坂戸シティFCと東京国際大学が共に優勝となりました。両チームとも、今季から関東リーグに昇格となりますが、ここでいい手応えを感じたのではないのでしょうか(3ページに関連記事)。

高体連は新人戦が開催され、浦和東高校が4年ぶり7回目の優勝を飾りました。詳細は大会総評に譲りますが(6ページ参照)、各チームにいい素材が出てきています。それが、県大会出場以外のチームにも出てきており「4種リーグ効果」を感じさせられました。

3種ではU-13選手権があり、クマガヤSCが優勝しました。いつも河川敷で練習しているせいか、強風の中でも慌てず、しっかりと技術を発揮できていたことに好感が持てました。4種新人戦はレジスタFCが



高体連新人戦決勝 浦和東 vs 西武台

優勝してその力を見せてくれましたが、決勝で敗れた烏天狗Jr. FCもしっかりと存在をアピールできたと思います。新たなチームの台頭は、本心に喜ばしいことです。

さあ、春です。更なる成長を期待しています。

埼玉県サッカー協会東松山サッカー場について

施設委員長 二瓶省三

すでにご存じの方も多いと思いますが、埼玉県サッカー協会東松山サッカー場(通称:SFAグラウンド)が、この3月末を以て、土地使用契約終了となりました。

このグラウンドは、埼玉県サッカーの発展を目指し、指導者・審判員の育成、選手強化・育成などを主たる目的とし、リコー東松山研修センターのご協力を得て、2003年6月に完成したSFA専用サッカー場(人工芝)でした。研修センターの宿泊施設を利用させていただけたこともあり、このグラウンドを利用したこのあるメンバーの皆さんも多いことでしょう。ここから多くの指導者、審判、そして選手が育っていきました。この施設は栄えある埼玉サッカーの歴史の1ページに刻まれたと言っていいでしょう。

非常に愛着のある施設ではありましたが、これでお別れとなります。しばらくの間、メンバーの皆さんにはご迷惑をおかけ致します。(株)リコーの皆様には感謝致します。ありがとうございました。



平成24年度第4回運営会議開催

2月15日に埼玉スタジアムボールルームにおいて「運営会議」が開催された。いくつか要点を抜粋して紹介しておく。

【前回の質問に対して】

Q. 24年度から大会役員交通費として2,000円を支給しているが、昨年度までと同様の交通費と謝金を含め役員費を5,000円としたい。

A. 諸般の事情で2,000円をお願いしたい。増額する場合は、各連盟の責任において、税法上に則った処理をしていただき、その分の精算は参考までにSFAに提出していただきたい。(小高財務委員長)

Q. 「3種技術委員長」という肩書きで文書が配信される。これは正式なものなのか。

A. 正しい名称の使用を各種別委員会をお願いしたい。SFAとしては2、3、4種において技術委員長はおいていない。別のその要因として県内各地で様々なトレセン活動が行われているが、SFAとしてのトレセンは東西南北の4地区と県代表のみ。その他については各市町FAに任せている。SFAの活動に関しては、私の名前で文書を出す。それ以外の活動に関しては、各連盟の長の方、もしくは各連盟内の技術委員長の名称で出していただきたい。(坂庭技術委員長)

Q. SFAの細則第8章の登録について。「主活動する市町協会に登録し……」あるが、登録を拒否する市町協会があるようだ。市町協会の実態について再度確認をお願いしたい。

A. (該当チームが南部だと思われたので、駒崎南部地域連絡協議会幹事長について返答していただいた)登録を拒否する協会はありません。登録はできますし、そういうことはありません。

Q. ある市町協会は同じ種別にも関わらず、チームによって登録費が異なっていた。確認をお願いしたい。

A. (該当チームが南部だと思われたので、駒崎南部地域連絡協議会幹事長について返答していただいた)違いはあります。例えば3種ならば、中体連は自校グラウンドを使用するので、市協会に対してグラウンド使用における負担がないのですが、他のチームに関しては、グラウンド使用料、備品利用は市協会が負担するために差が生じるのです。

【事務局より】

各種再発行、申請手数料の変更について

※ 変更個所のみ

手続きの種類	金額(円) ※消費税込		
	日本協会	県協会	合計
パスワード再発行(チーム・審判)	0	1,000	1,000
審判証再発行	500	500	1,000
ワッペン再発行(審判)	1,000	500	1,500
国際競技会開催申請	5,250	750	6,000
海外遠征申請	5,250	750	6,000

座談会

～生まれ変わった「女子連」、この一年を振り返る～
「長い目で見てください」

「関根さんも成長しました(笑)」(矢嶋)

— 昨年は組織として、大半が女性の役員となり、大きな第一歩を踏み出した一年だったと思います。また FIFA U-20 女子ワールドカップをはじめ大きな大会がありました。大変な一年だったと思います。まず、それぞれこの一年を振り返っていただけますか。

関根 これまではチームのみに関わっていただけで、女子連については大会運営など「大変だなあ」と思いながら見ていました。それが今は全体像を把握しなくてはならない立場となり大変ですが、女性の組織となったことで、細かいところも誠実にできるようになれば、信頼関係を結ぶことができ、やっていけるのではないかと考えているところです。



関根俊江会長

現在は矢嶋さんがまとめてくださり、こちらにいらっしゃる渡辺さん、狩野さんをはじめ皆さんにサポートしていただき、なんとか基礎ができたかなという感じです。

矢嶋 「女性による、女性のための、女性の組織に」と意気込んでやってみましたが、思ったほどできていないというのが現状です。大会の準備と運営に追われていて、大きなことを考える余裕がないですね。「女性だけでなんとかなっているのか?」と聞かれば、まだまだできていません。そこは長い目で観ていただければと思うのです。

泣きたくなるようなこともあります。この一年でそれぞれ皆さんが成長して下さっていると思います。関根さんも成長しましたし(笑)。

一同 (笑)

矢嶋 でもまだまだ。将来の埼玉の女子サッカーをどうするか考えなくてはなりません。ですから「もうしばらくお時間をください」という感じです。

渡辺 1年前、埼玉で矢嶋さんから「ちょっと話が」と言われ、「審判委員長をやって」と頼まれました。矢嶋さんにあまりにも必死になって頼まれたので、安請け合いました(苦笑)。

私は一審判員として、女子連の大会に関わってきましたが、いつもいつも大変だなあと思っていました。女子は県内でも遠いグラウンドで、それもトイレもないグラウンドで試合を行い、古いテントの中で運営していましたからね。

それで少しでもお役に立てればと思い加わりましたが、私が所属している中体連とは異なり、「これはまずいだろう」という組織でした。今も苦労しています(笑)。とにかく「こんな大会があるんだ」と驚かされることもあり、私自身は、ちょっと前が見えない



出席者：関根俊江会長
矢嶋理子理事長
渡辺典子審判委員長
狩野智津子事務局長 (SFA事務局)

状態が続いています。

実際、この組織の運営は女性だけではできないと思います。男性にサポートしていただくことも必要です。ただ、執行部は女性が一致団結して、女性ならではのパワーのあるところ、度胸のよさで乗り切っていければと思います。この一年、乗り切ってきました。それが力になっています。これを3年、4年と続けていく中で、充実感も出てくると思いますね。

「ときどきキツイことも……」(狩野)

— ちなみに「これはまずいだろう」と思われたところは、どんなところですか。

渡辺 個々の役割が明確じゃないんですね。というか、一人であれもこれもやっている、という人がいらっしやいました。また、この話はだれに、どこに繋がっているの? と思うことも。バラバラという感じでした。

狩野 それは大きな課題ですね。1つの組織の中にカテゴリーが様々あって、それをどうまとめるかですね。ただカテゴリーを超えても、情報の共有はできると思います。私は現場にあまり出ることなく、それでいて矢嶋さんにとときどきキツイことも言っています。すみません……(苦笑)。

矢嶋 いえいえ、いいんですよ(笑)。このバラバラ感を執行部でまとめていきたいと思っています。もっと縦と横との連絡が必要ですね。

— バラバラという課題が出ましたが、女子連としては、大会をこなしながら組織を拡充していくことが急務だということでしょうか。これを解決するには、やはり人かなと思います。人が組織を作りますし、そもそも人がサッカーをする訳ですから。もう少し明確にするとすれば、人材の発掘ということだと思います。

矢嶋 女性は難しいですね。結婚して、出産して、子育てしてと、途中で抜けてしまいます。指導者になっても同じです。戻ってきていただければいいのですが、なかなか上手いきません。

「埼玉で新しいモデルを」(関根)

関根 私は子どもを3人産んだのですが、戻りましたね。もともと陸上をしていましたが、嫁入りした児玉町の町技がサッカーで、二十歳を過ぎてからサッカーを始めたんですね。これまで二十数年サッカーをしています。人と人が繋がることを感じています。

まず一人目を産んだ後、1年後に戻ったのですが、楽しかったんですね。2人目ができたときに絆ができ、3人目を産んだ後も戻ることができました。

陸上って、個人での戦いですが、サッカーは個人+仲間。仲間のこと、チームのことを考えるじゃないですか。これが楽しかったですね。苦しいこともありました。だからまた戻ろうと思いましたが、受け入れてもいただきました。こういうことは女性にしかわからないかもしれませんが、埼玉で新しいモデルができればいいなと思うんです。皆さんで知恵を出し合いたいですね。人間というのは、他人からしてもらったことは、他人にできるんです。

渡辺 女性の審判の世界では、出産、子育てがあるために、上級審判に挑む人は限られています。これは仕方の無いことだと思います。

今、中学で部活をとという話がありますが、現状ではなかなか難



矢嶋理子理事長

しいです。個人的には高校年代でインターハイが始まりましたから、この高校年代から本格的にサッカーをやってほしいと思いますね。そこから大学やレディースでがんばってもらい、出産や育児があっても、また戻って来ることのできる環境を作れるといいですね。実際、ママさんチームの試合を見ていると、乳母車を引いているお父さんとかいらっやいますよね？



渡辺典子審判委員長

矢嶋 監督に子守りしてもらいながら練習していましたし、私も選手の子どもをあやしていましたよ。

渡辺 できることをできる中でやっていくということです。それもまた面白く、それが女子サッカーのよさでもあるかなと思うのです。私は、仕事も育児も一生懸命やって、サッカーをやらせてもらっているという感じです。「ダメだったら無理しないで」でいいじゃないですか。

—そういうことは女性でないと共有できませんね。やはりやれる範囲で関わっていただく、無理のないところをお願いするということが大事ですからね。これが男の世界だと「任せられたら、やって当たり前」ですからね(苦笑)。

さて、これからの抱負をお聞かせください。

「繋がるのが大事」(渡辺)

関根 まだ漠然としていますが、先ほども話が出たように、カテゴリーを超えて繋がりを持てるようにしたいですね。そのためには、私自身、できる限りあちこちの大会に顔を出したいと思っています。

—全カテゴリーとなると、すごい大会数、試合数ですよ。

関根 全部わかっていませんが、すごい量ですよ(苦笑)。

渡辺 なかなか行けませんね。だから、それでバラバラなのかもしれないですね……。

矢嶋 今はなでしこブームで登録数が増えています。特にU-15が元気で喜んでます。ただ高校となると、県内ではなく、東京都に流れていくんですね。県内のそれぞれの高校には、いい受け

皿になっていただければと思っています。

渡辺 もっと子どものときにサッカーを好きになって、関わりたいと思ってくれるようになってくれたらいいですね。女子高生はおしゃれをしたい年頃なのに、泥まみれです。がんばってほしいですね。

関根 うちのチームから栃木のチームに移籍する選手がいるのですが「戻ってくるから、それまで続けていてね」と言ってくれたんですね。

狩野 それが難しいんですよ。

矢嶋 チームもそうでしょうが、この女子連としても、続けていくために後継者が必要になります。どこからか見つけてこないか。

狩野 そのためにも、組織として整えていかないといけないですね。各カテゴリーとの繋がりが「決算」だけでなく、すべての面で繋がっていかないといけないと思います。

関根 私の任務だと思っています。

渡辺 あとは協力者を得ることです。また女子サッカーを理解してくれる人を増やすと言うことです。チームがあれば試合ができ、審判も関わるができるのです。私たちは、女子サッカーに関わる人たちを応援する立場だと思います。だから、今繋がっている人たちとしっかりと繋がるのが大事です。

地域で組織化していただくことも大事でしょう。県審判委員会の指導部の一人でもありますが、女子連とタイアップしていきたいと思っています。アピールしていきましょう！

関根 皆さん、これからもよろしく願います。また、埼玉県内の女子サッカーに関わっている人はもちろんですが、ちょっとサッカーから離れている方も、これから関わりたいと思っている方もお声がけください。よろしく願います。

—女子連として、人生を通じて女性がどのようにサッカーと繋がっていくのかを示すのもいいかもしれませんね。引き続きよろしく願います。ありがとうございました。



おめでとう、関東昇格！ ～坂戸シティFC&東京国際大学～

1ページでも紹介したが、この春、坂戸シティFC(今季より大成シティFC坂戸)と東京国際大学が共に関東リーグ(それぞれ2部)昇格を果たした。クラブの歴史に大きな一歩を示すと共に、埼玉の誇りを賭けて関東の中でいい成績を収めていただきたい。

両チームの監督からコメントをいただいた。がんばってください！

大成シティフットボールクラブ坂戸 監督 熊谷 哲平

我々は5度目の挑戦で目標の関東リーグへと昇格した。この間の全ての選手、スタッフが努力をした結果であり非常に感謝していると共に、日頃からご支援ご協力頂いている埼玉県サッカー協会並びに県社会人連盟関係各位に深く感謝申し上げます。

2013年関東リーグ昇格を機に坂戸シティフットボールクラブから大成シティフットボールクラブ坂戸と改名し、新たなスタートを切った。



坂戸シティ FC (写真提供/坂戸シティフットボールクラブ)

沢山の方々への感謝を忘れず、フットボールを通じて少しでも勇気や希望を与えられたらと考えています。これからも株式会社大成住宅及び大成シティフットボールクラブ坂戸をよろしく願います。

東京国際大学体育会サッカー部 監督 前田 秀樹

私たちはまだ新鋭校であり、強豪校が集う関東リーグでは厳しい戦いが予想されます。選手には、目標であった舞台で思う存分実力を試してもらいたいと思います。しかし、勝利だけを追求することは私が望むスポーツのあり方ではありません。味方を助け、助けられる姿、フェアプレーを重んじ、相手や審判をリスペクトする姿こそ望ましいと考えます。私はサッカーを通じてチームスポーツを学び、一丸となり戦うことを選手に期待します。



東京国際大学体育会サッカー部

2012年度C級コーチ養成講習会SFAインターンシップコース(春)、終了!

3月11日から15日まで、平成国際大学と埼玉スタジアムで2012年度C級コーチ養成講習会SFAインターンシップコース(春)【主催／(公財)埼玉県サッカー協会、共催／埼玉県教育委員会】が開催され、11名が受講し全員が認定された。この後、派遣中学校の調整・選定が行われ、中学校でのインターンシップ、当該校での指導実践を経て、C級コーチライセンスが付与されることになっている。

今後、県内中学校に案内を出し、大学生指導者の派遣を希望する中学校を募る予定になっている。受講生の皆さんには、いい指導を期待している。

そこで今回、経験者に手記をいただいたので、紹介したい。

● SFA インターンシップに参加して

平成24年度埼玉県大学サッカー連盟委員長
埼玉県立大学 諸見里 航

1. はじめに

私は平成24年の1月から埼玉県内の中学校へ部活動の指導に伺わせていただいています。地域のスポーツ少年団で小学生の指導をした経験はあったのですが、中学校という学校現場で、それもメニューを自分で考え指導をするのは初めてのことであり、不安な気持ちでいっぱいだったのを今でも覚えています。私が担当している中学校は顧問の先生が2人いらっしゃいますが、サッカーに関しては素人です。それでも私にサッカーのことを尋ねてきたり、自らインターネットなどを使いながら練習メニューを考えたりして下さっています。メインで指導するのは私ですが、お互いの足りない部分を補いながら3人で一緒に指導を行っています。

2-1. 初めての現場にて

初めて私が部活動を見学しに行ったとき、オンとオフの切り替えがきちんとできていないと思いました。ホームルームが終わって人が集まってきたら活動を開始する。そこに決まりごとはありませんでした。ただ何となく活動をしている。しかも、練習内容は最初から最後まで紅白戦であり、パスの練習どころかアップも満足に行っていませんでした。しかし、それが彼らにとっての当たり前でした。誰が悪いわけではありません。彼らも彼らなりに一生懸命やっていました。ですが、小学生の頃からサッカーを行っている子どもたちがクラブチームに流れてしまい、中学校のサッカー部が衰退している理由の一つがここにあるのではないかと、中学校に伺った初日に考えさせられることとなりました。

2-2. 中学生と接してみても

中学生というのは精神的に不安定であり、とてもデリケートな年代です。私の言動一つで良くも悪くも大きな影響を受けます。そのような彼らに対し、どのように接していけば良いか戸惑うことは今でもあります。さらに、急な行事が入ったために部活動が中止になったり、委員会活動等で部員が集まらなかつたりというような学校現場ならではの難しさもあります。そして、毎日指導に伺えるわけではないので、その中でいかに信頼関係を築いていくかが課題となりました。私はできるだけ早い段階で部員の名前を覚えることを心がけました。当たり前のことかもしれませんが、名前を覚えていないと個人的に声をかけることもできません。さらに部員同士でどのようにお互いのことを呼び合っているかにも注意しながらコミュニケーションをとっています。

2-3. ルールを作るところから

私は部活動の開始と終了の挨拶を行うこと、その後に私が決めたアップメニューを必ず行うというルールを作りました。そして、練習の大半を基礎練習に割くようにしました。今まで考えたことがなかった、部活動の型(ルール)を決めることの大切さに今さらながら気付くこととなりました。ある程度の型を決めておくことで、私が「いつも通りの基礎までやろう」と言えば、彼らは自分たちで練習に入れます。こちらが余計な指示を出す必要がないので効率も上がります。また、私が指導に行けないときでも最低限の練習は行ってくれます。しかし、今まで基礎練習をやっ



ていなかった為に、練習に真面目に取り組まなかった部員が多かったのも事実です(もちろん私の指導力不足ということが大前提にあります)。特に、多少技術がある部員の方が基礎練習を面倒だと思っている印象を受けました。正直、当時の中学3年生(今年の春卒業した新高校1年生)とは様々な事情があり、満足にコミュニケーションをとることができませんでした。先ほど述べた部活動の型をある程度作ることができたのも彼らが引退した後でした。

3. 指導者不足は審判員不足になる

私自身が審判活動を行っているということもあり、どうしてもそちらの視点からサッカーを見てしまうのですが、サッカー未経験者の方が顧問になると部員たちにルールを教えることができないという問題が出てきます。とくに中学校からサッカーを始めた子どもたちに対しては技術と並行してルールを覚えさせることが必要だと思います。しかし、サッカー未経験者の方が顧問ではそれができません。また、公式戦であっても地区大会は教員の方が審判を行います。そのことも一つの課題であると思います。

これは昨年行われた新人戦での話ですが、私たちのベンチの目の前でこちらのチームの選手が相手選手に後ろからスライディングをされて倒されました。「警告だ」と思っていたら、審判の方はセンターサークル付近にいて、反則すらとりませんでした。結局、ファールを受けた選手は負傷退場することとなりました。私はその判定に対して異議を唱えることはしませんでした。ただ、試合終了後に審判の方と握手をする際に、あの判定についてあくまで審判員の立場として私の考えを伝えようか迷いました。しかし、外部コーチとして来ており、審判インストラクターの資格も持っていない大学生に偉そうなことを言われて気分を害されるのではないかと、中学校側に迷惑がかかるのではないかと思い、結局何も言いませんでした。その選択が正しかったのかは今でもわかりません。

選手がルールをきちんと理解しないままサッカーを続けることは絶対プラスには働きません。また、今まで全くサッカーをやったことなかった先生方が審判を行うことはかなりの負担であり、その中で先生方も必死にやって下さっているとは思いますが、一生懸命やっているのにかわらず、お互いが不幸になってしまうのはとても残念なことです。

4. 叱ることの大切さ

このインターンシップを通じて、叱ることの大切さを学ぶことができました。先に述べたような練習に真面目に取り組まない部員に対して、当時の私は適切に叱ることができませんでした。外部コーチという立ち位置で「どこまで叱って良いのか?」ということに戸惑いを感じていたことも理由の一つですが、一番の理由は叱ることで今後彼らとコミュニケーションをとることができなくなるのではないかと考えてしまっていたからです。つまり、嫌われるのを恐れていたのです。しかし、自分の軸をきちんと決め、部員たちにとって絶対的な存在になることが指導者として必要だと思いました。

もちろん、ただ威張っていれば良いわけではありません。自分の考えを理由とともに彼らに伝えていくことが大切だと感じまし

た。その一つ的手段として叱ることも必要だと思いました。自分の過去を振り返ってみても私が尊敬する方々は、ご自分の軸をきちんと持っていました。私たちがどう思っている、自分の考えを貫いていました。私も不満をもらしていたときもありましたが、今になって考えると、先生方がぶれない存在でいてくれたことが私たちに安心感を与えていたのだと思います。もちろん私がそのような存在にすぐになれるわけではないのですが、もう少し何かできたのではないかと考えてしまいます。そして、当時の中学2年生たちを変えることができなかったことに関しては、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

5. 終わりに

大学生の外部コーチとして指導に伺っている中で、様々な制限はありますし先に述べた審判の問題を私が解決できるとは思っていません。しかし、顧問の先生方とコミュニケーションをとりながら活気ある部活動を部員とともに創り上げていながら、埼玉県のサッカーが少しでも良い方向に向かうように努力していきたいと思っています。これらのことは実際に中学校へ足を運ばなければ知らないままでした。それも長期的に活動を続けていたから分かったことです。現場を知ることができるとい



うことがこのインターンシップに参加する大きな意義であると思います。そういう意味でもサッカーに関わるより多くの大学生には、このインターンシップに参加し、自分の目で現場を見て、そして自分自身の頭で考え、たくさん悩んでほしいと思います。

最後に私のような未熟な大学生にこのような貴重な機会を与えて下さった埼玉県サッカー協会の皆様をはじめ、私を取り巻く全ての関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

SMCサテライト講座終了!

～受講者の声を紹介～

前号でも紹介しましたが、2月2日から3月3日まで「2012年度 スポーツマネジャーズカレッジ サテライト講座 in 埼玉」が開催され、無事に終了しました。受講者の皆さんの「これから」に役立てていただければと思っています。今回は三人の方に、その感想を書いていただきました。

なお今年は、このサテライト講座の「リフレッシュ研修会」も検討しております。引き続き、よろしくお願いします。

●平塚 修 (ASエルフェン狭山)

今回のSMCサテライト講座を受講したのは、今までピッチの内外の現場指導しかしてこなかった自分が、ふとTVを見ていて、世界のサッカークラブはどうやってクラブ運営や試合運営が行われているか、疑問に感じたところから始まりました。

講座が始まる時には年齢や経歴が違い他県から埼玉に足を運んだ方など、知らない者同士でしたが、グループワークをしているうちに楽しくなり「仲間」となってきました。

SMCでは今までには考えていなかったクラブのはっきりとした将来像やビジョン、地域との深い関わり合いなどを考え発表していききました。

さらに埼玉県のみの特設講座、「財務講座」では難しく思っていたクラブの「お金」について非常に分かりやすい熱い講座を体験でき、是非ともSMCの本講座を受講してみたくくなりました。

まずは埼玉県の指導者やクラブ関係者の方は、是非とも受講していただき「クラブ運営」を深く話しあって素晴らしいクラブを作っていきましょう!

●宮田 忠夫 (鴻巣市サッカー協会)

まずは、協会の方々及び講師の皆様にご貴重な経験をさせていただいたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。講座の中でも財務講座がインパクトを与えてくれました。

ビジョンを明確にし、実現までのアクションプランを立てたあと、改めて自分の頭の中の極めて少ない引出しを整理してみたら、思いに対する明確な裏付けが見えていなかった事に気が付かされました。普段から熱いサッカー仲間と総合型地域スポーツクラブへ向けての思いを伝える事さえ、準備不足で本意が伝わらず「宮田さんは、ただクラブチームを作りたいだけなのか?」と、仲間から一歩待ったをかけられたのが二回目の講義前の週末でした。つい

つい愚痴のように個人発表の際、そんな話を言ってしまいました。

戦略的な裏付けがない前例のままスライドした事業は、仲間の熱い思いさえも失わせることとなってしまいます。今後背景や根拠「なるほど〜だからこう考えたんだ〜」を立証していきながら、事業計画を立てるための三つの感性(共感、期待感、信頼感・安心感)を踏まえ、積み上げたアクションプランを作成していきたいと考えます。

また、中学校を核とし、三年後には必ず一步を踏み出し始めます。携わって頂きました皆様、ありがとうございました。

●小島 敦史 ((株)BS朝日)

従来よりスポーツビジネス、とりわけマネジメントに興味がありましたため、この度SMCサテライト講座を受講させて頂きました。

受講するにあたり①スポーツマネジメントを体系的に学ぶ ②同じ志を持つ方々との交流を図る との目標を掲げて臨みましたが、共に大きな成果を得られ、大変意義深い講座であったと感じております。

講義は単なる座学ではなく、毎回グループワークメインの形式であったため、頭で整理し、議論しながら手を動かすことで、適度な緊張の中、密度の濃い内容となりました。全SESSIONを通じて学んだ「設定した目標に対し、現状を分析してロジカルにアプローチを図る」という考え方は、スポーツビジネスはもとより、一般のビジネスの場に於いても十分に通じるものと思います。

また受講メンバーとも回を重ねるごとに打ち解け、年齢や立場を超えての交流を図れたことは得難い財産です。

今回の講座で得たスキルやネットワークが、自身の次のステップへ進む際の大きな糧となるものと確信しております。



大会記録 ● 県内大会

1種

平成24年度第3回第1種選手権大会

3月3日～10日 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場他

準決勝 尚美学園大学 0-4 坂戸シティFC
ACアルマレッザ飯能 0-0 東京国際大学 (4PK5)

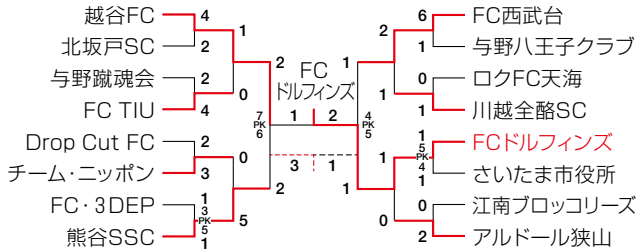
3位決定戦 尚美学園大学 3-1 ACアルマレッザ飯能
決勝 坂戸シティFC 両チーム優勝 東京国際大学

※ 強風のため、決勝は中止となった。

平成25年度彩の国カップ埼玉県サッカー選手権大会

埼玉県社会人サッカー連盟会長杯

1月20日～3月17日 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場他

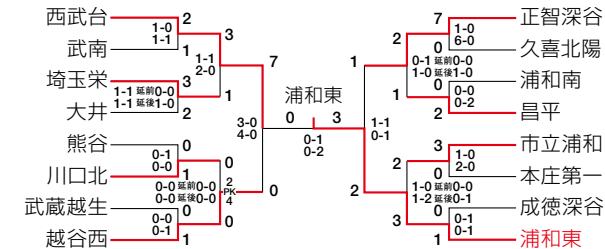


※優勝はFCドルフィンズ。彩の国カップへの出場権を獲得した。

2種・高校

平成24年度埼玉県高等学校サッカー新人大会

2月9日～17日 川口・青木町公園陸上競技場他



※ 浦和東が4年ぶり7回目の優勝



浦和東高校

●平成24年度県高校サッカー新人大会報告

埼玉県高体連サッカー専門部技術委員 平尾 信之(越谷総合技術高校)

今年度の県新人大会は、2月9日から2月17日に行われ、昨年の全国高校サッカー選手権埼玉県予選ベスト8のチーム及び各支部新人大会を勝ち抜いた上位2チームを合わせた計16チームがトーナメント方式で戦った。

4年ぶり7度目の優勝を果たした浦和東高校は、鍛えられた運動量をベースに1試合を通して全員が攻撃に関わり続けることができた。GK大久保、DF ندポカを中心に、一人一人が粘り強い守備をした。さらに、プレスバックやセカンドボールへの意識も高く、その点が他チームを一歩上回っていたと感じた。その中で、1年生ボランチ大澤の攻守における献身的なプレーが光った。また苦しい状況でも得点を奪えるセットプレーは、新チームにおいても健在であった。今後は、攻撃に関わる人数を増やし、攻撃に変化を付け、バイタルエリアの攻略にもチャレンジすることができれば、全国でも十分戦うことができると感じた。

準優勝の西武台高校は一人一人の高いテクニックをベースに、ピッチの幅と深さを上手く使いながら少ないタッチ数で攻撃を仕掛けた。FW松山の連続した動き出し、MF三沢の展開力、宮野の突破力、両サイドバックの積極的な攻撃参加は破壊力抜群である。決勝戦では、浦和東

高校のハイプレッシャー、ハードワークの前に準決勝までのような攻撃の形がなかなか作れず、またテクニックの精度も落ちてしまった。厳しいプレッシャーの中でも精度を落とさずに西武台本来のサッカーを展開できるかが、更なるレベルアップへの鍵だと思う。

準決勝で浦和東高校に敗れた正智深谷高校は、新チームのスタートが遅れたのが原因なのか、チームの完成度はまだまだ、という印象を受けた。特に守備時の連係が明確になっておらず、フリーでシュートを打たせてしまうシーンが目立った。しかし、昨年からのエースFWオナイウヤ、MF齋藤、栗田、GK内野などタレントには揃っているので関東大会予選に向け、どのように仕上げてくるか非常に楽しみである。

上位には進出できなかったが、武南高校、市立浦和高校、昌平高校のサッカーは今後注目していきたいと感じた。

武南高校は、鈴木、室崎など昨年のインターハイ準優勝メンバーが残っている。伝統のサイドライン際での人数をかけた突破は今年も健在である。初戦で西武台高校と対戦し敗れたが、攻守の切り替えが早く、常に判断を伴ったプレーをしていて非常に見応えのあるゲームを展開した。今後プリンスリーグで強豪校と戦っていく中で、どう成長していくか期待したい。

市立浦和高校は、3-4-3システムを採用して戦った。攻撃時には左右、前後と流動的にポジションチェンジを繰り返す中で生まれるギャップ、効果的な縦パスを入れようとする意図がはっきりしていた。また、サイドにはスピードのある選手を配し、縦に速い突破を仕掛けることもできる攻撃型のチームである。

昌平高校は、FW福田、MF和田など、前線にスピードとテクニックのある選手を配していて、ショートカウンター時のグループでの突破は脅威である。チームとして、丁寧にボールを繋ぐスタイルで戦っているが、ハイプレッシャーの中でも、どれだけスタイルを変えずにできるのか今後注目していきたい。

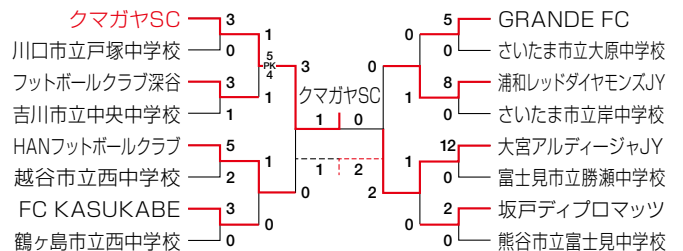
今大会、すべての試合を観戦したわけではないが、一人一人の守備に関わる意識は高いように感じた。どのチームもFWの選手から積極的にボールを奪いに行くシーンが多く、攻守の切り替えも早かった。しかし、守備の関わり方の質の部分に目を向けるとまだまだ明確化されていないシーンも多く、改善すべき点もある。ファーストディフェンダーの寄せ方や距離感が甘く、ボール保持者にパワーのある状態でプレーをさせてしまうシーンが多く観られた。そのことにより、セカンドディフェンダーのポジショニングや役割が明確化されておらず、簡単に前を向かれたり、突破を許してしまうシーンが多く観られた。また、センターライン付近での縦パスに対する厳しさや、自陣ゴール前の粘り強さ、GKと連携した対応の仕方、ファウルをしない守備なども課題として挙げられる。

最後に、4月から始まるU-18埼玉県リーグ(武南高校はプリンスリーグ出場)や関東大会県予選(武南高校はプリンスリーグ出場のため不参加)における守備の課題の改善と、特色ある各チームの成長に期待し、新人戦の総評とする。

3種

第15回埼玉県ユース(U-13)サッカー選手権大会

2月9日～3月9日 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場他

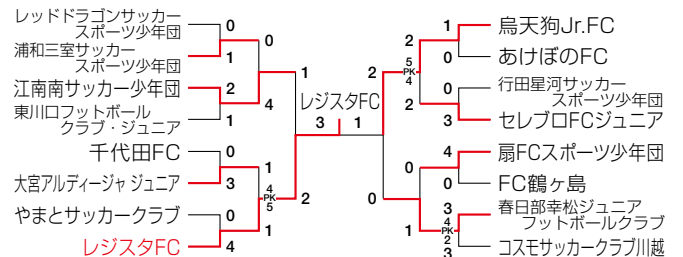


※クマガヤSCは2年ぶりの優勝

4種

第7回埼玉県第4種新人戦 中央大会

2月10日～17日 埼玉スタジアム第3グラウンド他



※レジスタFCが優勝



4種新人戦中央大会決勝 レジスタFC vs 烏天狗 Jr.FC

大会記録 ● 県外大会

フットサル

第7回U-23長野オープン全国フットサル選抜大会

2月9日～11日 南長野運動公園体育館他

順位	チーム名	滋賀県	埼玉県	三重県	富山県	勝点	得点	失点	得失差
1	滋賀県選抜	*	3○2	1●2	6○4	6	10	8	+2
2	埼玉県選抜	2●3	*	2○1	2○1	6	6	5	+1
3	三重県選抜	2○1	1●2	*	5○1	6	8	4	+4
4	富山県選抜	4●6	1●2	1●5	*	0	6	13	-7

※優勝は滋賀県選抜

トリムカップ2013 第5回全国女子選抜フットサル関東大会

2月11日 水海道総合体育館

Bグループ
 埼玉県 2-2 栃木県
 千葉県 3-0 埼玉県
 神奈川県 1-1 埼玉県

※埼玉県選抜はグループ3位。本大会には東京都選抜、神奈川県選抜が出場する。

第15回関東フットサルリーグ（2部）参入戦

2月16日、17日 神奈川県立体育センター

1回戦 烏天狗/IMPERIO 浦和FC 6-1 武田消毒フットサルクラブ
 2回戦 烏天狗/IMPERIO 浦和FC 1-2 府中AFCサテライト
 ※関東参入は MORANGO 栃木、府中 AFC サテライト、LIBERDADE CHIBA

第4回関東女子フットサルリーグ参入戦

2月16日、17日 神奈川県立体育センター

1回戦 深谷フットサルクラブ 3-2 カフリンガボーイズ東久留米
 Naporeon.Futsal 4-3 深谷フットサルクラブ
 ※関東参入はフォレストアネックス、セウパレータ* A&S（残留）

報告

JFA パイロット研修会

審判委員長 岡田 泉

1月23日(水)24日(木)の両日18:45~20:45までJFAパイロット研修会が北浦和のカルタスホールで行われました。この取り組みは、(公財)日本サッカー協会(以下JFA)審判委員会が、地域の審判インストラクターの育成と資質向上を狙いとして本県で初めて行ったものでした。JFA審判委員会からは上川委員長、小幡副委員長、黛育成部長、講師としてFA審判インストラクターのKeith Hill氏が来県し、本県所属のS級から3級までの審判インストラクター12名がレクチャーを受けました。Keith Hill氏はJFAがイングランドより審判インストラクターとして招聘し、トップフェリーやJFA審判インストラクターの資質向上のため尽力いただいた方です。

1月23日はKeith Hill氏のレクチャー、24日は参加者によるプレゼンテーションというカリキュラムで行われました。

・Keith Hill氏のレクチャー「Principles of Teaching」

Keith Hill氏のレクチャーは約100分間行われましたが、様々なところに工夫が見られ受講者も飽きることなく聞き入っていました。Keith Hill氏が体現したように5P(Preparation Planning Promotion Presentation Personality)の重要性と全てにおいて「受講者」が中心であり、受講者の意欲を引き出すことが大切なことであるということ実感することができました。

・審判インストラクターのプレゼンテーション

Keith Hill氏のレクチャーの後、テーマが出され参加者が24日にプレゼンを行いました。テーマは、「競技者の用具」「キックオフ」「スローイン」「コーナーキック」でした。受講者は、準備期間が短いにもかかわらず前日のレクチャーを参考にそれぞれのPersonalityを活かしたプレゼンを行い、お互いに講評しながら良かったところ、改善したほうが良いところを出し合いました。

参加者は、この研修会を通して基本に立ち返り、審判インストラクターの任務を再認識させられたことと思います。非常に刺激のある2日間でした。

このJFAパイロット研修会は、同受講者によって今後6日間実施(半年2日)予定です。オブザーバーの参加を含め、少しでも多くの方が体感できる場を設定していきたいと思っています。



Keith Hill氏

西部地区タウンミーティング報告

広報委員長 荒川裕治

2月16日(土)、川越市立体育館会議室において「西部地区タウンミーティング」が開催された。深澤晴男会長(東松山市協会会長)を筆頭に、7市1町より27名の皆さんに集まっていた。

横山副会長からは公益財団法人になって一年が経過する中で、財政問題を中心に話があった。「大きな収入源がないことから、SFAとしてはサッカーの中身をよくなる、人づくりに徹する」という話となり、そこから体罰の話題へと移っていった。

「教育は結論が出ないものであり、時代時代で変化するものです。今後JFAからは『人間性』を強く打ち出してくるでしょうが、SFAとしては常々『人』について発信しています」(横山副会長)

この話から、参加者の皆さんから意見をいただくようになり、ディスカッションとなった。参加者の皆さんの声を抜粋すると、「手を上げたらおしまい。手を上げてわからない」「叩くことで理解させるのは駄。それは家の中のこと」「信頼関係があつてのことだが、築けるかどうかは難しい」「殴っても変わらない。言い聞かせるしかない」「家庭で駄を放棄していないか。都合のいいときにだけ『なぜ教えてくれないのか!』」「家庭教育がなされていない。親がガムをかんで髪を染めて学校にやってくる時代」「昔は納得して殴られていたものだ」

今回、意識の高い皆さんに参加していただいたと思う。それはこれまでになく、積極的なディスカッションができたからだ。実際、これまではこちらから発言を促すようなこともなく、とかく情報発信に主眼を置いていたが、ちょうど「体罰」というテーマがあったことで、このような展開になった。これからは一方通行にならず、皆さんが発言しやすいような話題提供をし、発言していただくことで「会議に参加してよかった」と思えるように進めていきたい。

ガールズ&レディースフェスティバル開催!

2月2日と3日、埼玉スタジアム第4グラウンドにおいて、ガールズフェスティバルとレディースフェスティバルが開催されました。どちらもJFA主催の普及イベントであり、サッカーを楽しんでもらうことが目的でした。

2日のガールズフェスティバルには72人の参加があり、午前は大宮アルディージャのスタッフによるサッカークリニックを、午後は8人制ミニゲームを行いました。参加者の内訳は中学3年4名、中学2年21名、中学1年33名、そして小学6年14名。開催時期が2月で受験時期と重なり3年生の参加が少なかったことから、次回開催は時期をずらしたほうがいいかと思えます。

終了時にアンケートを取ったところ、今後あなたはどのようにサッカーを続けたいですか?の質問に、60パーセントの子供は女子のクラブチームでやりたいと答え、続いて中学の部活で、そしてチームに所属せず体育の授業等でやりたい、特に続けたいと思わないが1割でした。この「続けたいと思わない」1割の子供たちにサッカーの楽しさを伝えるのが、これからの課題となりました。

3日のレディースフェスティバルは初参加チームの文教大学、サパティーン、川口FCスピリッツ、SE FILHATREVOに、昨年も参加の北坂戸レディスと上里FCパワーズと6チーム、51名の参加による8人制のリーグ戦を楽しみました。特にレディースのチームは、大学生チームや一般の若いチームとの試合には気合が入っていたように思われました。毎年高校のチームの参加がありますが、今年度はグラウンドの都合と高校の新人戦とぶつかったことから、高校チームの参加がなかったのが残念でした。



ガールズフェスティバル (2月2日)



レディースフェスティバル (2月3日)

編集後記

●サッカーを取り巻く様々な問題・課題が出て来ますが、今回は体罰。体罰が悪い事はすぐわかるのですが……。色々な考え方の人がいて難しいですね。たかがサッカー、されどサッカー。(坂庭)

●『明日笑うためには、何をすればいいの?』という、本の広告見出しに惹かれ、読んでみようかなと思っています。プロ野球の坂本勇人内野手の本だそうです。(こいち)

●25年以上も親しくしている大先輩でもある友人が(もうすぐ83歳!), この3月で離れた

所へ引越す事に。ずっと近くにいると思っていたので、何とも言いようのない淋しさです……。 (かのう)

●インターンシップC級講習会、気合いを入れて大学生に混ざったものの、まさかのワンプレーで捻挫……。 (笑)。情けなく、バれないようにやり過ごしましたが、社会人が日頃プレーできる環境づくりは大切だと身をもって感じました。(小豆澤)

●この時期の話題と言えば……花粉症ですね。私の場合は目と鼻です。目は常に真っ赤で鼻は

24時間通行止めです(笑)。医者に行ってもどんな薬を飲んでも効果がありません。どなたかこの病魔から私を救って下さい…。 (佐々木)

●SFAグラウンドの契約満了は本当に残念です。私も、「準指」でお世話になりました。このところご無沙汰していましたが、久しぶりにこの1月、2月と続けて伺いました。指導実践で頭が真っ白になった苦しい思い出もあり、感慨深いものがありました。新しいグラウンド、いやフットボールセンター建設はこれからの大きな課題です。(荒川)

インフォメーション

●「SFA インフォメーション プレ1号」の配信について

先日、登録チームと登録指導者の皆様へ「SFA インフォメーション プレ1号」を配信させていただきました。いきなりの配信に戸惑われた方もいらっしゃると思います。続きまして、登録審判の皆様にも配信させていただきました。チーム、指導者と重なって届く方もいらっしゃると思いますが、ご理解をいただきたいと存じます。

このような形でSFAより不定期ではありますが、皆様に直接、送らせていただきます。どれも重要な情報発信ですので、受信後、ご確認いただくようお願い致します。

今回配信させていただいている方々は、JFAの「Kick off」上にメールアドレスを登録されている皆様です。配信ご希望の方は、ぜひとも登録変更をお願い致します。

なお、一般県民の皆様にも配信を予定しております。もししばらく、お待ちください。

●(公財) 埼玉県サッカー協会 種別区分登録数

2013年2月末現在

種別	種別区分	チーム数	選手数		
第1種	J1	2	57		
	J2	0	0		
	JFL	0	0		
	社会人連盟	401	9,382		
	大学連盟	20	969		
	専門連盟	4	72		
	高等連盟	0	0		
	その他	4	78		
第2種	高体連	180	9,780		
	クラブユース連盟	4	130		
	その他	0	0		
第3種	中体連	382	15,492		
	クラブユース連盟	68	4,483		
	その他	1	10		
第4種		532	532	17,919	17,919
女子	Lリーグ	2	55		
	一般	13	410		
	レディース	2	49		
	大学	5	147		
	高校	31	847		
	クラブ(高校生)	4	142		
	中学	1	30		
	クラブ(中学生)	10	233		
	少女	18	340		
シニア		34	34	1,327	1,327
登録合計		1,718		61,952	